

将来の英国王の結婚相手としては1660年のヨーク公妃以来という貴族階級以外から嫁入りしたキャサリン妃が7月22日、男の子を出産し、長らく待ちわびたロイヤルベビーの誕生に英国中が喜びに沸き立った。バッキンガム宮殿前はお祭り騒ぎとなり、多くの人々から「未来の国王の誕生という歴史的な瞬間に立ち会えて、こんなに幸せなことはない」と言う賛辞の声が聞かれた。

キャサリン妃が出産したセントメアリー病院前は世界中の報道陣が数百人詰め掛け、王室ファンや見物人も加わって大混雑となり、“ベビーノミクス”による経済効果は372億円、祝杯用シャンパンの売り上げだけで約95億円と試算されるだけでなく、来年にはエリザベス女王の孫娘ザラ・フィリップスさんも第1子を出産する予定なので、“ロイヤルベビーブーム”が1971年以来というベビーブームを巻き起こし、少子化に歯止めがかかるとまで期待されている。

実はキャサリン妃が入院していたリンドー病棟はすぐ前が一般道で、玄関から20メートルも離れていないところに地元の人々で賑う喫茶店がある。正にこれは、長きにわたって英王室がアピールして来た「身近な王室」であるが、さらに驚いたのは王室史上初となる「実家での子育て」だ。何と一般家庭で将来の国王の育児が始まるのだ。退院の日も、王子が赤ちゃんを乗せたベビーシートを後部座席に積み込み、自ら運転して走り去り、普通の“イクメン”ぶりを見せ付けられた人々はますますメロメロになった。が、実はこれにソックリな話しが聖書にある。ずばりクリスマスで有名な、メシアであり王である「キリストの誕生」である。

「その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。『恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなた方の為に救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなた方は、布にくるまって飼いの葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなた方へのしるしである。』」

ルカによる福音書2章8-12節：共同訳

とある様に、1000年以上前から預言されていたメシア誕生を目撃したのは一般労働者であった。キリストは馬小屋にて庶民の娘から生まれ、庶民と共に育ち働き、飲んだり食べたりした。それだけではない。困っている人を助け、最後には我々の罪を背負って十字架にかかって下さった命の恩人である。しかも神様だからよみがえり、天に昇り、そして信じる者には聖霊を送って下さり、今も毎日、我らを導いて下さるといふから何とも親しみやすい神様である。身近な王室どころの話ではない。この“身近な神様”に、何十億という人々が、何千年もの間メロメロなのである。

2013-8-2

